作業環境改善

信和、集じん機新設

可鍛コロの品質向上

鉄スクラップの取り扱いや建築物の解体などを手掛ける信和（本社＝大阪市住之江区、澤育彦社長）はこのほど、本社工場の1500㌧マウントシャーに新東工業製の集じん機を新設した。

新設した集じん機

同社は、本社工場を可鍛コロ専用工場として再構築するための一環として、先行してシャーリングピットの改修時期に合わせてピット内にふるい機を設置。鉄粉を回収する機能を備えた。

さらに今回、ふるい機で回収できない細かい粉じんを集じん機で回収することで、可鍛コロの品質と作業環境の改善を図った。「屋内ヤードのため以前は場内にダストが舞っていたが、設置後は視界がクリアになり作業環境も大きく改善した」（澤将也取締役）。

同社は、1957年創業で工場発生のスクラップの取り扱いを強みとし、厚板の溶断スクラップを中心に自社の解体発生スクラップを含め月間3000―5000㌧取り扱う。

本社工場で溶断スクラップを切断加工し主に鋳物メーカー向けの原料に仕上げるほか、付近に展開する南ヤードは昨年6月に1000㌧スクラップシャーを新設しヘビーや解体物などの一般スクラップを加工するなど、品種に応じて各拠点で効率的に作業し品質管理を徹底できる体制を整えた。

スクラップ以外にも解体や建設、不動産、改修・保全など多様なサービスを提供し、関東に東京支社を展開。人手不足が顕著な業界だが近年は人材確保が順調に進んでおり、順次若返りを図っている。

産業新聞　2024年9月10日